

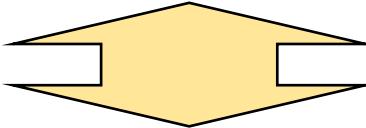
豚熱野外株・ワクチン株の鑑別qPCR法の導入

1 通知の背景

- 岐阜県、愛知県等では、豚熱の発生数が減少
(ワクチン株検出による疫学情報への影響が相対的に上昇)
- ジビエ利用再開により導入された出荷時PCRでは検査の迅速化が必要
→遺伝子精製が不要なマルチプレックスqPCR法の導入等により対応



野外株とワクチン株との鑑別の必要性が増加



- ★これまでの対応：動衛研でのシークエンス検査により実施
・検体輸送・検査で1週間以上の時間を要する。

都道府県において実施可能な、簡便、迅速かつラボ内の遺伝子汚染リスクの少ない豚熱の野外株・ワクチン株の鑑別のための検査法の導入が求められている。

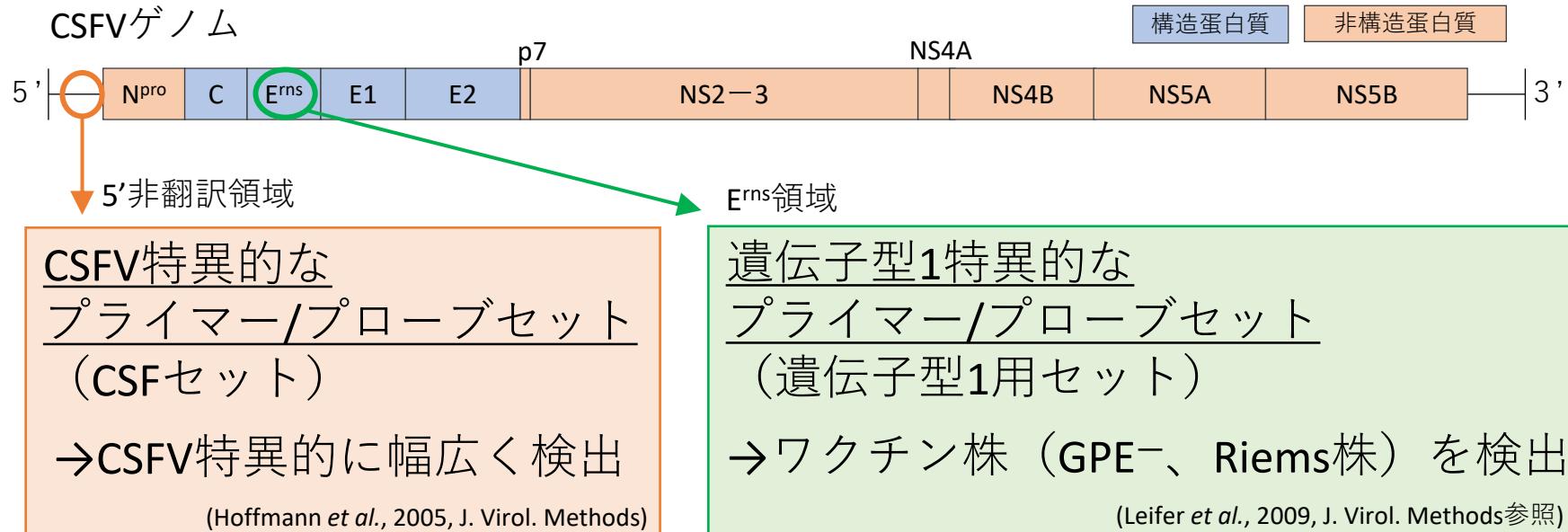
2 実施の条件

- (1) 手引きに基づく市場流通を目的としたジビエ処理を行う出荷時遺伝子検査
 - (2) 豚熱ウイルス遺伝子検査（1による遺伝子検査の場合を除く。）で陽性となった場合であって、周辺の野生イノシシにおける豚熱感染の状況（例：数か月間感染が確認されていない等）から、野外株とワクチン株との鑑別が必要であると家畜防疫員が判断する場合。
- ※ (2) の場合でワクチン株と判定された場合は、動物衛生課にシークエンス検査の実施の必要性について確認が必要（コンタミの可能性、1型の野外株の可能性等について検討）

3 導入時期

令和4年3月31日通知予定

CSFV識別マルチプレックスqPCR法



CSFV識別マルチプレックスqPCR法

CSFセット：検出または非検出

遺伝子型1セット：検出 → 【ワクチン株】

CSFセット：検出

遺伝子型1セット：非検出 → 【国内流行株】

CSFセット：非検出

遺伝子型1セット：非検出 → 【CSF遺伝子陰性】